

氏名： SCHWARTZ LAURE  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系／比較日本学研究センター  
職名： 准教授  
学位： 博士（文学）  
専門分野：  
E-mail： schwartz.laure@ocha.ac.jp

#### ◆研究キーワード / Keywords

日本美術史／仏教／美術館／欧米における日本学／極東美術コレクション  
Japanese Art History / Buddhism / Museum / Western Japanology / Eastern Asian Art Collection

#### ◆主要業績

- ・ガストン・ミジョンとルーヴル美術館の中の日本 ? 知と技の継承、融合、変革?  
『お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター年報』第5号 29年 pp.155-17
- ・「源氏物語の千年? 日本と欧米における源氏絵の旅?」(28年7月6日 お茶の水女子大学第1回国際日本学シンポジウム) セッションの趣旨: 比較日本学教育研究センター年報5号 pp 85-89
- ・29年7月5日 第11回国際日本学シンポジウム セッション?  
企画・コーディネイト・司会: ロール・シュワルツ = アレナレス  
テーマ: 日仏交流の中のテキスタイル ? 技術 デザイン、コレクション?

#### ◆研究内容 / Research Pursuits

A) 西洋における日本美術史学の誕生と発展に関する研究

1893年、ガストン・ミジョンが日本美術コレクションを初めてルーヴル美術館に導入した目的、その経緯、彼を導いた思想を明らかにしながら、19世紀後半と2世紀前半に出版された多くの新聞記事、展覧会カタログの分析を通して、欧米における日本美術の受容という問題について考察した。

B) 日本仏教美術、及びイコノグラフィー研究

前年度までに引き続き、平安時代の仏画の傑作、「応徳涅槃図」(186年制作)に関する研究と並行し、日本仏教美術及びイコノグラフィーについての欧米における研究史について、比較研究的な観点からの研究を続けた。泉武夫教授率いる研究プロジェクト(「兜率天往生の思想とそのかたち」科学研究 基盤研究(B))では、弥勒菩薩と兜率天に対する西洋の見方、そして西洋におけるその研究について明らかにし、また兜率天の思想とそのイコノグラフィーを、西洋美術における「煉獄」の表現と比較する作業を開始した。

A) Researches on the genesis and the development of the Japanese art history in West

While continuing to present the thought, the stages and the objectives which conducted Gaston Migeon, to introduce for the first time in 1893 the collections of Japanese art at the Musée du Louvre, I continued, through the analysis of numerous articles of newspapers and catalogs of exhibitions published during the last decades of the 19th century and the beginning of the 20th century, to deal with the question of the reception of the Japanese art in Europe and in United States.

B) Researches on Japanese Buddhist art and Iconography

In continuation with my research on the Otoku nehan zu, masterpiece of the Heian Period preserved at the Reihokan Museum (Mount Koya), I also continued to study from a comparative point of view, the history of researches conducted in Europe and in United States about Japanese Buddhist art and iconography. As a member of a project directed by Professor Izumi Takeo (Rebirth in Tusita Heaven-Forms and Thoughts; JSPS Grants-in-Aid for Scientific Research Project) I began to examine the history of the regards and the studies developed in western countries on Miroku Bosatsu and Tosotsuten believes and I have been also trying to compare the thought and the iconography of Tosotsuten with the representations of the Purgatory in the western art.

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

### 授業

1999年にパリに移築された「木曾の古民家」を例とし、フランスにおける日本の伝統建築及びデザインの受容についての問題を上げた。現在一時的に人類博物館に保存されているこの古民家は、麻織物の伝承者、畑中たみの所有であったが、民族学者ジャヌ・コビが設立した「木曾の古民家協会」が中心となって解体・移築された。29年「ル・モンド」誌に掲載された「木曾の古民家」に関する2件の記事やその他の資料の翻訳を基に、この古民家の保存、展示、そして西洋の美術館における日本の建築・デザインの普及をめぐる問題について考察した。

### 演習

例年通り、西洋における最初の日本美術コレクションの歴史をテーマとした演習では、アーネスト・フェノロサの功績と思想に焦点を当てた。フェノロサ没後1周年を記念し、著作の大部分を初めて集めて出版された『フェノロサ没後1周年記念出版 フェノロサ英文著作集』の中の資料を基に、芸術遺産、特に日本美術に対するフェノロサの考え方を、歴史的、比較研究的視点に立って分析、解釈した。

Course: From the presentation of a very topical case, the "House of Kiso" (Prefecture of Nagano), which reached Paris in 1999, we have been tackling the question of the reception of the Japanese traditional architecture and Design in France. At present temporarily kept in the Musée de l'Homme (Paris), this House having belonged to Tami Hatanaka, weaver of hemp, was pulled down and transported from Kiso to Paris on the initiative of the association "The House of Kiso", founded by the ethnologist Jane Cobbi. From the translation of papers dedicated to this house published in 2009 in the French newspaper Le Monde as well as other additional documents we have dealt with the problems involving the preservation, the exhibition and the diffusion of the architecture and the Japanese design within the western museums.

Seminar: Dedicated to the History of the first western collections of Japanese art, our seminar aimed to present the thought of Ernest Fenollosa. From the papers edited in English language in the book recently published on the occasion of the Centenary of its death (Ernest Francisco Fenollosa: Published Writings in English in 3 volumes Introduced by Seiichi Yamaguchi, Series: Collected Works of Japanologists Ed.Synapse, 2009) we tried to analyze in an historical and comparative perspective, the conceptions of Fenollosa towards the artistic heritage.

## ◆研究計画

ガストン・ミジョンに関する研究の続きとして、西洋における日本美術への関心とその研究の歴史について、特にフランス、広くはヨーロッパやアメリカにおける日本の美術作品の受容と解釈に言及する資料（展覧会カタログ、新聞や雑誌の記事、観覧案内書など）の研究を中心に調査を進めていく。ガストン・ミジョン、クロード・メートル、レイモン・ケクラン、あるいはジョルジュ・サールといった偉大な先駆者のそれぞれの思想や行動の関連性だけでなく互いの相違を明らかにしながら、20世紀前半のフランスに見られたような極東美術、特に日本美術の概念と普及に関わる重要な史実とその展開に、新たな要素を見出すことが目標となる。

また、日本仏教美術に関する研究では、欧米における兜率天の表現とその受容の歴史についての比較研究をさらに掘り下げていくことになる。

ミジョンに関する研究の続きとして、西洋における日本美術への関心とその研究の歴史について、特にフランス、広くはヨーロッパやアメリカにおける日本の美術作品の受容と解釈に言及する資料の研究を中心に調査を進めていく。ミジョン、メートル、ケクラン、あるいはジョルジュ・サールといった偉大な先駆者のそれぞれの思想や行動の関連性だけでなく互いの相違を明らかにしながら、20世紀前半のフランスに見られたような極東美術、特に日本美術の概念と普及に関わる重要な史実とその展開に、新たな要素を見出すことが目標となる。

また、日本仏教美術に関する研究では、欧米における兜率天の表現とその受容の歴史についての比較研究をさらに掘り下げていくことになる。

共同研究の可能性：

\* お茶の水女子大学比較日本学研究中心 /INALCO・コレージュ・ド・フランスなど（研究プロジェクト名：欧米における日本学 ?? 日本美術研究を中心に ??）

\* お茶の水女子大学 /パリ第7大学・フランス国立高等研究院 日本学：本学の新たな構築の試み

2004年6月にお茶の水女子大学比較日本学研究中心助教授に着任して以来、フランス人研究者としての日本美術史に対する考察を伝え、大学や美術館での研究・勤務経験を生かして、お茶の水女子大学の国際学術交流に貢献できることは大変光栄である。講義や、比較日本学研究中心が主催する国内外での様々な活動（講演会、セミナー、シンポジウム、出版）を通して、海外で力強く発展し続ける日本学に接し、学生が研究テーマを発見し、これを深めていけるように促していきたい。日本美術に関する海外の文献の紹介と解説、海外の主要な日本学研究中心の訪問、講義や比較日本学研究中心主催の国際セミナー等は、我々の目的とするところであり、関心のある学生と共に追究していきたいと願っている。

## ◆メッセージ

2004年6月にお茶の水女子大学比較日本学研究中心助教授に着任して以来、フランス人研究者としての日本美術史に対する考察を伝え、大学や美術館での研究・勤務経験を生かして、お茶の水女子大学の国際学術交流に貢献できることは大変光栄である。講義や、比較日本学研究中心が主催する国内外での様々な活動（講演会、セミナー、シンポジウム、出版）を通して、海外で力強く発展し続ける日本学に接し、学生が研究テーマを発見し、これを深めていけるように促していきたい。日本美術に関する海外の文献の紹介と解説、海外の主要な日本学研究中心の訪問、講義や比較日本学研究中心主催の国際セミナー等は、我々の目的とするところであり、関心のある学生と共に追究していきたいと願っている。